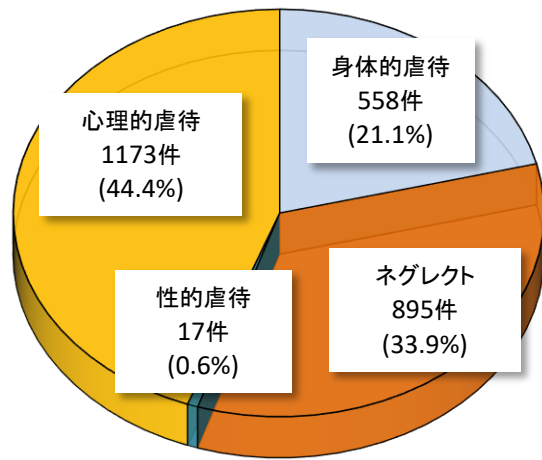
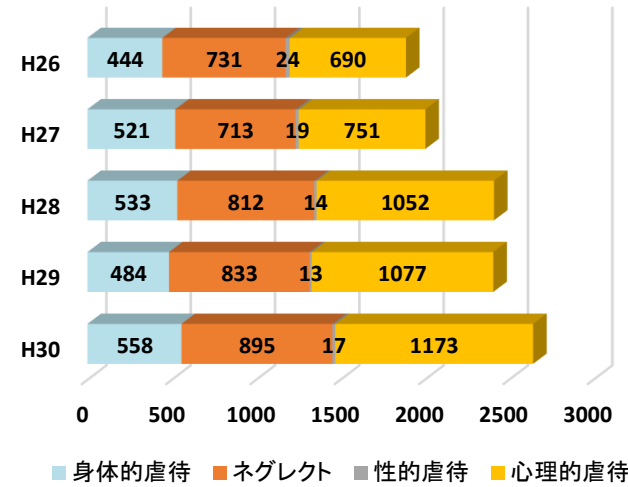


虐待の種類

H30種類別件数内訳



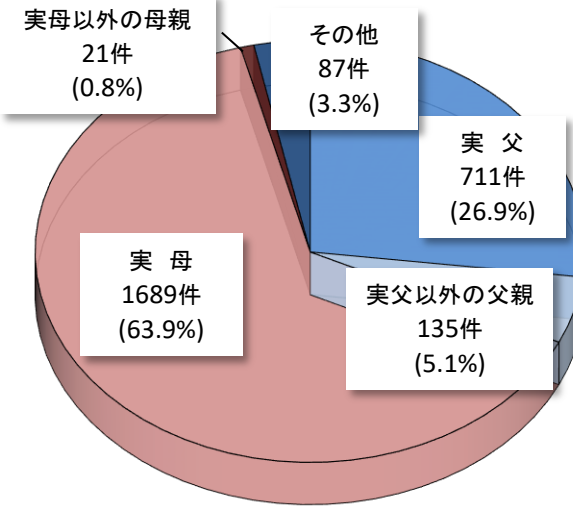
種類別件数の推移



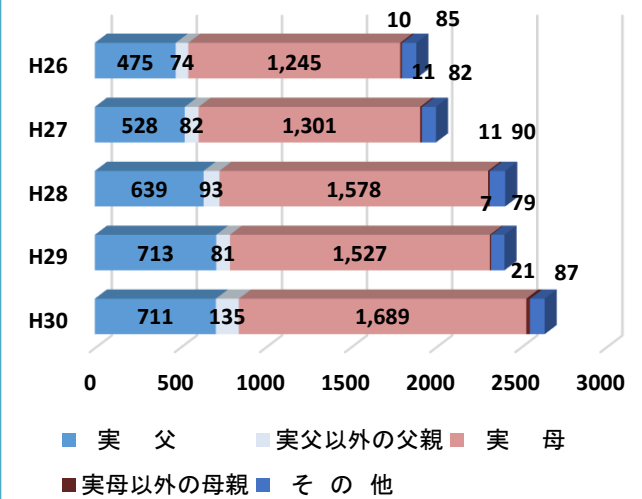
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比べると、すべての種別で増加が見られるが、「身体的虐待」が74件増（15.3%増）、「心理的虐待」が96件増（8.9%増）と増加率が高い傾向が見られた。

主な虐待者

H30主な虐待者の件数内訳



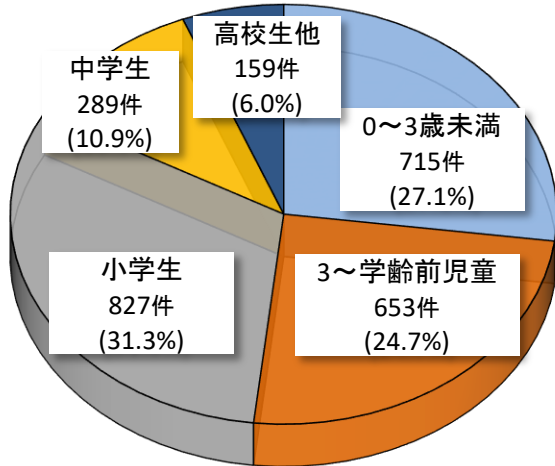
主な虐待者の推移



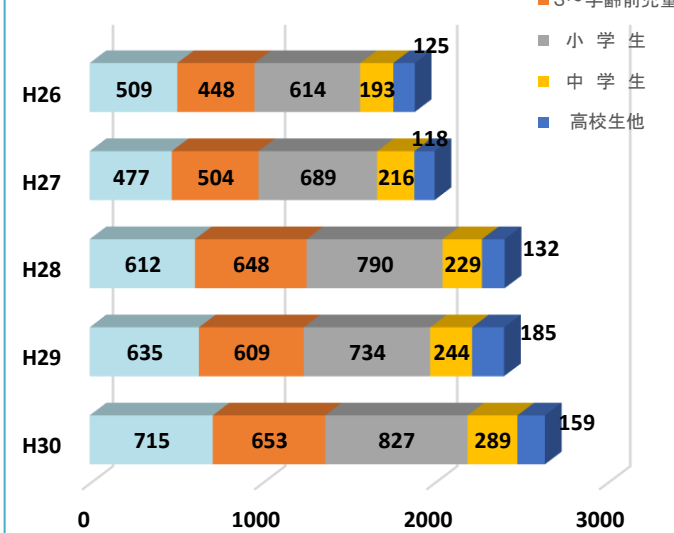
「実母」の割合が最も多く（63.9%）、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の9割を超えている。前年度と比べると「実母」が162件増（10.6%増）、「実父以外の父親」が54件増（66.7%増）している。

被虐待児の年齢

H30年齢別件数内訳



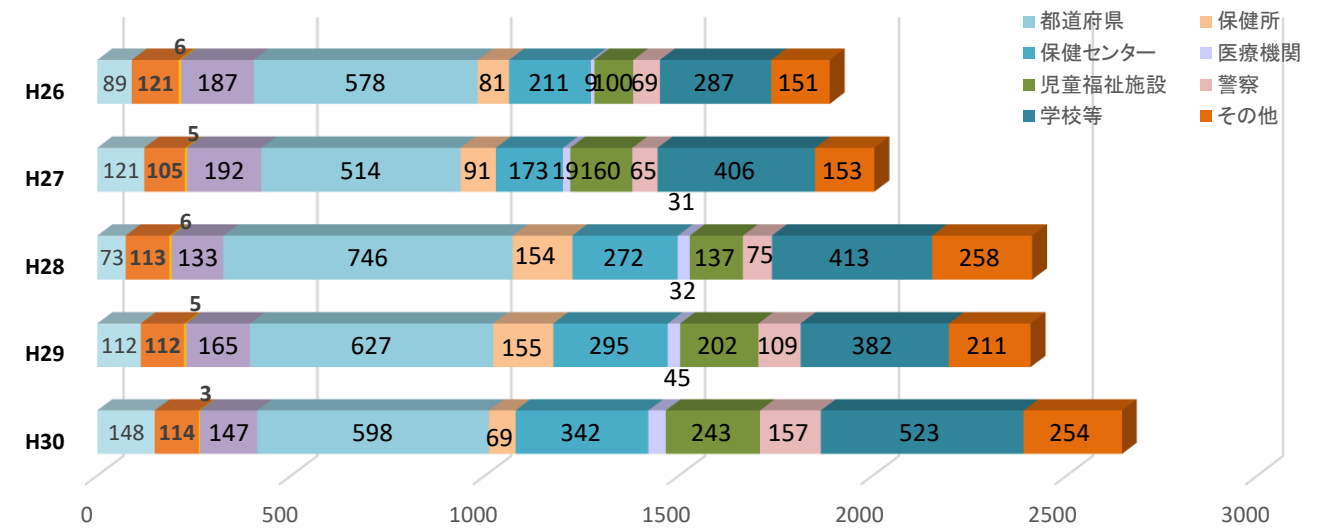
年齢別件数の推移



「0歳～就学前」の児童が、全体の約半数（51.8%）を占めており、前年度と同様の傾向が見られる。また前年度と比べると、「0歳～就学前」が80件増（12.6%増）、「小学生」が93件増（12.7%増）となり、増加率が高い。

虐待通告の経路

種類別件数の推移



「都道府県」からの通告が最も多く、次いで「学校等」「保健センター」の順である。前年度と比べると経路「保健センター」、「児童福祉施設」、「警察」、「学校等」が、それぞれ47件増（15.9%増）、41件増（20.3%増）、48件増（44.0%増）、141件増（36.9%増）と特に増加率が目立っている。